

作成日 2019/10/17

改訂日 2020/10/06

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 リークチェック 不燃性
 会社名 株式会社MonotaRO
 所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
 担当者名 商品お問合せ窓口
 電話番号 0120-443-509
 FAX番号 0120-289-888
 整理番号 M201006

2. 危険有害性の要約
GHS分類

物理化学的危険性 エアゾール 区分1
 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語
危険有害性情報

危険
 H222 極めて可燃性の高いエアゾール
 H229 高压容器: 熱すると破裂のおそれ

注意書き
安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。(P211)
 使用後を含め、穴をあけたり燃したりしないこと。(P251)

保管

日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。
 (P410+P412)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
水	90.0~99.0%	不明	不明	不明	7732-18-5
グリコール類	1.0~10.0%	不明	不明	不明	不明
ポリ(オキシアルキレン) = アルキルエーテル	0.79%	不明	非公開	不明	不明
トリエタノールアミン	1%未満	N(CH ₂ CH ₂ OH) ₃	(2)-308,(2)-353	既存	102-71-6
その他	1%未満	不明	不明	不明	不明
二酸化炭素	1.0~5.0%	CO ₂	(1)-169	既存	124-38-9

分類に寄与する不純物及
 び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合
蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。
呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。
呼吸しやすい姿勢で休息させること。
蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合
付着物を布にて素早く拭き取る。
多量の水と石鹼(又は皮膚用の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。
溶剤、シンナーは使用しない。
直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
また溶剤が全身にかかった場合は、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。
外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。

眼に入った場合
清浄な水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合
誤って飲み込んだ場合には直ちに吐き出し、水で口の中を洗浄後、コップ数杯の清水を飲ませ、希釈し、直ちに医師の診断を受ける。
自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
嘔吐物は飲み込ませないこと。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク、保護手袋等)を着用する。
二酸化炭素が漏えいまたは噴出している場所は、空気中の酸素濃度が低下している可能性があるため、換気を行い、必要に応じて陽圧自給式呼吸器を着用する。

医師に対する特別な注意事項
必要に応じて酸素と人工呼吸器を用意すること。無理に嘔吐させないこと。
自発的に嘔吐した場合、気道を確保すること。

5. 火災時の措置 消火剤

泡、散水又は噴霧水、炭酸ガス
(内溶液、ガス共に不燃性だが、製品内圧が上がると破裂する恐れがあるため、熱伝導を防ぐような消火剤を選定している。周囲の状況に応じた消火剤を選定する。)

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法	<p>直ちに消火器等で消火する。 指定の消火器を使用すること。 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 可能であれば、エアゾール容器を火元から遠ざける。 移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。 速やかに避難し、関係者以外は立ち入り禁止とする。 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。 消火活動は十分距離をとって、風上から行う。 有毒なガス(CO、NOx、SOx 等「10. 安定性及び反応性」参照)の吸入を避ける。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。</p>
消火を行う者の保護	<p>消火者は必ず適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。消火活動は十分距離をとって、風上から行う。</p>
<p>6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置</p>	<p>ばく露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。 眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 密閉された場所に入るときは換気する。(二酸化炭素は空気より重く、低い場所に滞留し高濃度になりやすい。) 高濃度のガスを吸入した場合、窒息の恐れがある 漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。 着火源を取り除く-禁煙。</p>
環境に対する注意事項	<p>河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意すること。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で処理する。(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる)付着物、廃棄物などは関係法規に従い処理すること。</p>
二次災害の防止策	<p>付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い</p>	<p>技術的対策 なし</p>

	局所排気・全体換気	換気のよい場所で取り扱う。(酸欠に注意) 取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で行うこと。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。 二酸化炭素は空気より重く、低い場所に滞留しやすい。二酸化炭素を使用するにあたっては、空気中の酸素濃度が低くなる危険性がある。
	安全取扱注意事項	すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わないこと。 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。-禁煙。 温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。 ミストを吸入しない。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。 取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。 この製品を取り扱う際に、飲食又は喫煙をしないこと。 混触禁止物質と接触しないように注意する。
保管	接触回避 衛生対策	「10.安定性及び反応性」を参照 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
	混触禁止物質	「10.安定性及び反応性」を参照
	保管条件	幼児の手の届かない所に置くこと。 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。 缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。 -禁煙。 40℃以上になる所には置かないこと。 混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。
	安全な容器包装材料	高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火する事がある。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
トリエタノールアミン	未設定	未設定	TWA 5 mg/m ³ , STEL -
水	未設定	未設定	未設定
二酸化炭素	未設定	5000ppm(9000mg/m ³)	TWA 5000 ppm, STEL 30,000 ppm

設備対策

排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。(空気中の酸素濃度が18 vol%未満にならないようにすること。)
 取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれぬような設備とすること。
 屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。
 タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

保護具

保護具必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定の際には保護具メーカー及び専門家等の意見を聞いてください。

呼吸器用保護具 有機ガス用防毒マスク、防塵マスク、(密閉された場所では)送気マスク

手の保護具 保護手袋(耐溶剤性)。

目の保護具 保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面。

皮膚及び身体の保護具 帯電防止の保護衣、通電性の靴、前掛け等(耐溶剤性)

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態 形状 色	エアゾール 液体 無色、透明 データなし データなし
臭い 臭いのしきい(閾)値		データなし データなし
pH 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲		7.3 データなし 100°C以上
引火点 蒸発速度 燃焼性(固体、気体)		引火せず データなし データなし
燃焼又は爆発範囲	下限 上限	データなし データなし
蒸気圧 蒸気密度 比重(密度) 溶解度 n-オクタノール／水分配 係数		データなし データなし データなし 1.009(20°C/測定値) 水に易溶 データなし
自然発火温度 分解温度 粘度(粘性率) 動粘性率		データなし データなし データなし データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 40°C以上になると破裂の恐れがある。
 常用温度で缶内圧は約0.55MPa。
化学的安定性 情報なし

危険有害反応可能性		<p>高圧ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険がある。</p> <p>二酸化炭素は水との共存により酸性を呈し、鋼材を腐食する。更に酸素との共存</p> <p>や高圧下では腐食が進む</p> <p>高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。</p> <p>衝突を避ける。</p> <p>直射日光を避ける。</p> <p>混触危険物質との接触を避ける。</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p>
避けるべき条件		
混触危険物質		
危険有害な分解生成物		
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分外に該当。
	経皮	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分外に該当。</p>
	吸入	<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>(気体)</p> <p>GHS定義による気体ではない。</p> <p>(蒸気)</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>(粉じん・ミスト)</p> <p>データ不足のため分類できない。</p>
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		<p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p> <p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p>
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		<p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>(呼吸器感作性)</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>(皮膚感作性)</p> <p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p> <p>毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p> <p>※区分1は0.99%含まれる。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>(生殖毒性)</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>(生殖毒性・授乳影響)</p>
生殖細胞変異原性		
発がん性		
生殖毒性		
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		<p>データ不足のため分類できない。</p> <p>危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。</p> <p>毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。

<p>吸引性呼吸器有害性</p>	<p>毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。 動粘性率が不明のため、分類できないに該当。</p>																								
<p>12. 環境影響情報 水生環境有害性(急性)</p>	<p>(毒性乗率 × 100 × 区分1)+(10 × 区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p>																								
<p>水生環境有害性(長期間)</p>	<p>(毒性乗率 × 100 × 区分1)+(10 × 区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。</p>																								
<p>オゾン層への有害性</p>	<p>データ不足のため分類できない。</p>																								
<p>13. 廃棄上の注意 残余廃棄物</p>	<p>廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。</p>																								
<p>汚染容器及び包装</p>	<p>許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理すること。 中身が出なくなるまで使い切った後でも破裂する恐れがあるのでそのまま火中に投じないこと。 関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 高圧ガスの容器を廃棄する場合は、製造業者等専門業者に回収を依頼すること。 危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。</p>																								
<p>14. 輸送上の注意 国際規制</p>	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="501 1261 663 1290">海上規制情報</td> <td data-bbox="751 1261 967 1290">IMOの規定に従う。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1292 584 1321">UN No.</td> <td data-bbox="751 1292 807 1321">1950</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1323 679 1379">Proper Shipping Name</td> <td data-bbox="751 1323 871 1352">エアゾール</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1382 568 1411">Class</td> <td data-bbox="751 1382 783 1411">2.1</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1413 663 1442">Packing Group</td> <td data-bbox="751 1413 759 1442">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1444 687 1473">Marine Pollutant</td> <td data-bbox="751 1444 911 1473">Not applicable</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1476 695 1619">Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code.</td> <td data-bbox="751 1476 911 1505">Not applicable</td> </tr> </table>	海上規制情報	IMOの規定に従う。	UN No.	1950	Proper Shipping Name	エアゾール	Class	2.1	Packing Group	-	Marine Pollutant	Not applicable	Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code.	Not applicable										
海上規制情報	IMOの規定に従う。																								
UN No.	1950																								
Proper Shipping Name	エアゾール																								
Class	2.1																								
Packing Group	-																								
Marine Pollutant	Not applicable																								
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code.	Not applicable																								
<p>国内規制</p>	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="501 1630 663 1659">航空規制情報</td> <td data-bbox="751 1630 1070 1659">ICAO/IATAの規定に従う。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1662 584 1691">UN No.</td> <td data-bbox="751 1662 807 1691">1950</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1693 679 1749">Proper Shipping Name</td> <td data-bbox="751 1693 871 1722">エアゾール</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1751 568 1780">Class</td> <td data-bbox="751 1751 783 1780">2.1</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1783 663 1812">Packing Group</td> <td data-bbox="751 1783 759 1812">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1814 608 1843">陸上規制</td> <td data-bbox="751 1814 831 1843">非該当</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1845 663 1874">海上規制情報</td> <td data-bbox="751 1845 1046 1874">船舶安全法の規定に従う。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1877 608 1906">国連番号</td> <td data-bbox="751 1877 807 1906">1950</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1908 568 1937">品名</td> <td data-bbox="751 1908 871 1937">エアゾール</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1939 568 1968">クラス</td> <td data-bbox="751 1939 783 1968">2.1</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 1971 608 2000">容器等級</td> <td data-bbox="751 1971 759 2000">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 2002 663 2031">海洋汚染物質</td> <td data-bbox="751 2002 831 2031">非該当</td> </tr> </table>	航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。	UN No.	1950	Proper Shipping Name	エアゾール	Class	2.1	Packing Group	-	陸上規制	非該当	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。	国連番号	1950	品名	エアゾール	クラス	2.1	容器等級	-	海洋汚染物質	非該当
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。																								
UN No.	1950																								
Proper Shipping Name	エアゾール																								
Class	2.1																								
Packing Group	-																								
陸上規制	非該当																								
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。																								
国連番号	1950																								
品名	エアゾール																								
クラス	2.1																								
容器等級	-																								
海洋汚染物質	非該当																								

	MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
緊急時応急措置指針番号	航空規制情報 国連番号 品名 クラス 等級	航空法の規定に従う。 1950 エアゾール 2.1 - 126
15. 適用法令		
化審法 労働安全衛生法		優先評価化学物質(法第2条第5項) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、 施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
		トリエタノールアミン(政令番号:381)(5%未満)
化学兵器禁止法		第2種指定物質・原料物質(施行令第3条別表3第4欄)
海洋汚染防止法		有害でない物質(施行令別表第1の2) 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法		輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」 輸出貿易管理令別表第1の16の項 輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認)
船舶安全法 航空法		高圧ガス(危規則第3条危険物告示別表第1) 高圧ガス(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法		その他の危険物・高圧ガス(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法		車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)		特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号)
16. その他の情報		
参考文献		製造元メーカー提供資料 NITE GHS分類結果一覧 JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) 経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。
その他		危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。